郷土資料（春日部地区）昭和四三年十月廿五日

第二十一回史跡めぐり（春日部）

越谷市郷土研究会
会員

はじめに

先日図書館長の木村先生よりお電話戴きまして　今回の史跡巡りは春日部市を訪問したい旨の事であり市文化財発行の案内書にては、内容があまりにも簡略であり判然としないので解説されたい由のお話でありましたが、実の所、筆者は刀剣の方で連日全国を飛び廻って歩いてるのが現在であり、この所当研究会にも欠席勝ちであり、「解説する資格なし」ですが、出身地でもあり筆を執らせて頂きました。

春日部は御承知の通り、古利根川、古隅田川、住古は大日川（新川）の枝河合流地であり、とみに伝説や史話の多い街でありますが、未発表の故にあまり世間に知られていません。折を見て発表をと考慮して居りました時、当会が春日部市探訪を計画された点には深く感謝致します。

当日は「解説にない史跡も通すがらお話したいと考えて居ります。」

会員諸賢の御存知の諸文献その他を引用所収し解説しました。

昭和弐申十月十日

敬刀舎　岩井　技

越谷市郷土研究会

昭和一回史跡めぐり 昭和四三・一〇・二七(日)

春日部市之部

解説 会員 岩井 茂

I 王蔵院板碑について

（市内第六の古い碑）

埼玉新聞社発行の「埼玉の厂史」には永久の変（一二二一）に討死したる春日[図] 刑部三郎貞幸の墓碑と載せている。

然しながら当板碑は正応三年六月（一二九〇）であり六九年の時代差があり、春日[図]貞幸は春日氏であり藤原姓と春日部氏とは何等の関係も見出せない。同時に春日貞幸は宇治川では討死していない。 ㊟（吾妻鏡七七頁） 宇治川の先陣争の勲功賞の礼明の冊（佐々木高綱梶田兼義）相論の起請文を提出している史実があり埼玉新聞社刊所載を鵜呑みにて転載しているものと思われる。筆者の考察にては系図史書に見られる春日部左近門三郎泰実（弘長三年八月二十五日）一、二六三年 ㊟ 吾妻鏡所見：の墓碑が、金沢称名寺文書五二四七、嘉元二年十二月二十六日付 大波羅探題下知状に見られる春日部弥二郎入道に関係ある人物の碑と推定したい。春日部氏と関係のある碑ではあるが、春日刑部貞幸とは全く関係ないと断定して良いと思う。

II 最勝院境内所在 春日部重行公墳について

春日部滝口左近門尉紀重行は元弘三年五月九日、新田小太郎義貞生品明神にて倒幕北条氏の挙兵の旗上げし、翌日利根川を渡河し、武蔵に入り、義貞内宿に十六騎にて源氏累代の祈願所であり一門の鎮護岡が祭祀されていた阿弥陀寺（彩戸町下新野永福寺）に参拝し、源氏の戦勝を祈願した折、一族を引連れ 出戸と郎左近門蓋浅一、家と共に迎拝したとされて居り新田氏と共に、所戸分倍河原の合戦に参加し（出戸氏は分倍河原で討死す）

鎌倉より都に入り、朝廷より重行公は滝口左衛門尉に補任され、所賢公は治部少輔に補任され、家兼公は左近衛人に補され、再三に渡る後醍醐天皇山門行幸・還幸等に扶奉して居り忠節を尽した。重行公は延元元年三月二三日上総国山辺郡（現千葉県山武町辺り）

以下次頁上段へ——

と下総国下河辺庄春日部郷の地頭職を安堵されたが同年六月廿日曽我都を総攻めの折鷲森にて討死されているが詳細にその討死したる形跡が見当らない。鷲森神社（京都府左京区所在）家綱公は同年八月廿日父重行の跡を安堵されたとあるも御綸旨文には（◎本文のまま）

上総国山辺南北並下総国春日部地頭職春日部郷吉田庄法師丸下不可有相違者天気如是悉之　延元元年八月廿日　左中辨　花押

右の通りであり家綱公と断定致しかねる。因に重行公への御綸旨文を（本文のまゝ、貳）

上総国山辺南郡下総国下河辺庄春日部郷地頭職並所々妨可令知行者天気如此悉之此状

延元元年三月廿二日　左中辨（中御門宣明）

右之如く大日本史料第六卷第三冊（内閣文庫）に見あれども家綱公は同年十月十日後醍醐天皇崩御の状奉火として見え足利直義の課税にて死亡したとされた。

醍醐公は後醍醐天皇崩御山門事

延元元年五月十九日に見られ以後は新田千種忠顕等と共に都の周辺の田野を転戦し、義貞北国落坂の時同道した如く見られ延元三年七月二日（一三三八）義貞公討死の折共に落命したが金勝寺本春日部入道を始めとして四十余騎と見られる。以上の通り春日部氏は一貫して南朝の官方に不惜身命を以つて奉仕し洛陽北郊の地に伏した事跡は楠・新田、名和・千種、北畠各氏に比して劣らない忠臣であった事は等閑であり惑るに東武地区の研究の遅れから由上に表われなかった。当所の首塚は重行公の首塚とされて居り、子息の家綱公が持ち帰って埋葬したとあるが当時の史書に依る状勢から比較して無理があり一族が又は郎党の者が埋葬したか、重行公、家綱公、時賢公の何れかの墳墓と見てよいであろう。重行公の墳とする前足する史料が皆無である。

Ⅲ　増田眠牛について

俳諧系図宗因門（西山）井原西鶴の門推本才君の門笠家逸志の急笠家左簾一由、同門に諸井旧室があり、その門人が増田眠牛と見える。

眠牛は山中観音堂に庵を構えて同町の篤志家の後援を得、宿内にて俳諧を度々開く、その門に市内谷原新田の豪農にて中村あり、号を敵石と称す、一説また宗因系の俳人として系図に見

元同じく眠牛の門に蔵石と二ヶ所に載る人物である。眠牛は（蔵林派と共）であり鄭国禅と号した。蔵石は（談林派八丑を継ぎ）鄭国禅二世を襲名した。安永四年春戒物或問を著わし、龍化帳　金花石集集、格字或問等を著した。鄭竹庵吾山は或問集の中に

八月のおぼろや解けて海のごとく

と詠じている。父の四吉太左衛門また柏之と号して俳諧にも見えている人物であります。吾山の東海隙には蔵石が巻頭言を書し吾山を蔵石も師と呼んでいるほどであります。

眠牛は明和八年三月（一七七一）没している。辞世は「かかれぬぞもういのちもの土筆」蔵石は九三才　天明八年七月二十三日九十三才

最涼院徳与幽譜慰道居士

辞世は逆修塔に

繁りおく松やいく年若みどり

天明あさき三の春逆修の石碑を建

傍に手ずから小松を植て。とある

吾山は天明七年十二月十七日（一七八七）没七才

辞世は「花と見し雪はきのふぞもとの水　吾山

石の如く眠牛についての資料は研究不足も手伝って皆無に等しいので蔵石の資料等で推量するのみであります。

その墓は才馬志家伊勢平の菩提寺成就院に残っている　明和八年三月二〇日（一七七一年）

「諦誉華頂眠牛居士」

清水商店　金　醤油醸造業者の寄進によると伝う。

V　三囲の稲荷社

東武線春日部駅北方五〇〇米、日光線傍所在。同社はもと現春日部中学校の校庭に位置する処に祭祀されていたが春中建設の為に現在地に移転したものであり、草創の少年時代は畑の中に松の木、もみの木等が生ひ繁った中の小祠であったが、この三囲稲荷には原口兼丹氏著の唐視察を続る物語りの所に所収されている伝説があり現在の墨田区小梅町にある三囲稲荷の本家と云われて居り市内に所在の梅若塚と墨田区の梅若塚」同じく市内牛嶋の女体社と墨田区の牛の御前社市内道順川戸の業平橋と墨田区の業平橋等は隅田川の上、下流に同様の伝説を有したる史談

が有るのも　興味をそそる所であります。

Ⅵ　破山の犬槙

市内典町の古利根川の河岸に所在する犬槙は、昭和廿年に天然記念物として指定されたが樹令六〇〇年と云われ幹廻り四三米を有する。この犬槙は江戸開府以来　春日部宿の河岸場として栄えた当時の古利根川を上下する伝馬船の目標として舟頭の目安にした樹木であり傍に稲荷社が祭祀を礼している。この稲荷社を破山の稲荷様と町民は呼んでいる。縁起には覺元元年（二四三）と言われている。当時の春日部氏は、春日部氏の最も勢力あった甲斐守実景の生存時代であり

注　第十七回史跡めぐり）参照

びっこ　稲荷の祈請　建暦元年（一二一一）と共に春日部氏が稲作等の収穫豊作を祈願しての造営だったろうか。

当所は中世よりの河岸場であった様である。

Ⅶ　最勝院と後弘堂について。

華林山慈恩寺最勝院と号す。山、院、寺等とも岩槻市慈恩寺と呼称を一にする。永正元年慈恩寺観音の別当□尊故ありて当所に引移りてとあり□尊が天台宗より改宗し、本寺を去りて近い言宗に改めたものか不明であり□尊を改宗の開山とすべきか、

中興開山を後弘と称し、延宝七年没

後弘法師は市内大場の荻原家の出生にて、初の智積院にて長老となりてその高徳を謳歌するものありて最勝院に住し、法門を民に説き近郷の善男善女の信仰厚き諸人群詣すとあり、境内には師の像を掘る堂が建ち、同大場の光明寺境内にも後弘堂が存している。

△　小渕観音の和算額　栗原伝三郎の事

春日部駅より北方約一・六粁四号国道沿いに在る小渕観音は堂宇五間四方に安置されている。本尊は正観世音で口碑によると、後深草天皇の正嘉二年八月古利根川氾濫の折、附近の里人が流木を薪にしようとして斧を当てた所稲妻が出て眼が眩みてその場に倒れたので驚いて調べて見ると流木の中に神像がありましたので堂を建て安置したもので、イボ、コブ、アザ等をとる霊験あらたかと称せられ毎年八月彼岸の例祭には夏

の参詣者がある。一名イボとり観音とも言われている。堂内には貴重な円空仏数体が保存されている。

和算外計算表の算額　兼原伝三郎は大治郎の子として飯盛幸松村八丁目（現春日部）に天保拾一年（一八四〇）に生まれ病を直保という。独学にて和算を研究し速算術を発案し、自ら近道流を起す。自称近道流算術士と称していた。兼原伝三郎は明治九年（一八七六）九月廿一日春取神社、明治三〇年（一八九七）六月　小渕山正観音明治四〇年（一九〇七）十二月東福寺へ算額三面を奉納している。

この他にこの渡成田山不動尊にも奉納したと伝えられているが何れも現存している。

伝三郎は和算教授に当っては非常に熱心であって農閑期の夜自宅に招き、自宅開放して行った。月謝を取らなかった由。明治九年地租改正の際門人を指導して幸松村の八丁目の測量を行った。その時伝三郎の手になる三部の測量図の一部が門人の家である吉田家に保管されている。伝三郎が著わした算術書稿本は兼原家の家宝として保存されていたが富士短期大学大谷学園にて現在保管している。原稿の表紙には明治二年（一八六九）二月吉日、近道算術書とかかれている。目次に一～二四まであるが　次の通り。

一、算法用字
二　八算割コイの事
三　八算九九
四　大数の名目
五　小数の名目
六　糧の名目
七　諸物軽重之事
八　諸術法
九　円　法
十　開平術（その一）
十一　開平約限法
十二　上坪結
十三　三斜術
十四　開平術（その二）
十五　開立術
十六　縦横取調方
十七　角　法
十八　開平術
十九　分合割

二〇　金銀神酒之事
二一　朴　法
二二　羅漢正貫及縦横之談
二三　八幡剣コイの事
二四　地積改正

奉納された額類の中、東福寺に保存されているのが見易く他は風食されている。

伝三郎は明治四三年（一九一〇）十月十二日当年七十一才を以って没す、墓標には法諱伝道居士とあり、東福寺に葬むられる。

△薬草園

（国立薬用植物栽培試験場）

春日部駅より徒歩十五分、市内三枚橋にあり我国最初の国立薬用植物試験場で、世界各地の薬用植物四七〇〇種が栽培されている。

敷地　八七、〇〇〇平方米（二万六千坪）で栽培法、調製法試験研究が行われている。関東地方唯一の薬用植物園で吾国薬用植物試験場の元祖である。

大正十一年に内務省東京衛生試験場附属園場として開設、昭和十三年厚生省に移管された其後

昭和十六年　和歌山県
〃廿三年　静岡県伊豆
〃廿九年　種子島
〃廿九年　北海道名寄市

などにも試験場が設けられた。

薬草園は明治十六年仲町の薬種商金子と右三門（金子操一氏祖父）が蒲御の栽培と調製を創めて子と右衛門またその業をつぎ、各国薬草の栽培製剤の研究に心血を注ぎ専門家を招いて特殊薬の製法にも成功した。

第一次大戦の時薬品の輸入が途絶えたので政府の奨励と共に栽培は進み遂に内務省嘱託として活躍された。この金子家三代の事業はその重要性が認められて大正十一年内務省直轄の薬用植物栽培園場となってからは世界各地の薬用植物栽培試験場として吾が国唯一の研究施設となる。

大平洋戦争には使用は勿論、民間医薬品の製法資料の供給源ともなった。

又園場は数種類の土質を有し、世界各地の薬用植物栽培の適地となっている。

主催　越谷市郷土研究会
解説及案内者　会員　岩井　茂

第廿一回史跡めぐりコース案内
10・二七・（春日部市）

越谷駅　午前十時集合
春日部
○板碑（内出玉蔵院）
○最勝院と春日部重行八幡　旭町
○和算額（八丁目東福寺）
○薬草園
○いかり山のいぬぐす（天然記念物）
○増田眠牛の墓（上間山中観音堂前）
春日部
越谷駅

備考
1、会費　四百円　昼食　及電車代（当日持参のこと）
2、予告
来月も春日部市中心に研究を進める予定
目下原案作成中　特殊資料其の他
意義あることと存じますので多数ご参加下さるよう御待ち致します。

廿一回史跡　参加者
十七名（内女子三名）
本日はまれい見る
晴天なり
八幡行　公傳墓にて
あまさ見る大いなる
牛の墓　墓かな
古墳の帝　仕えし
忠臣の墓　てけ
もしも